

2018年3月期 決算説明会

2018年5月23日

 **古河機械金属株式会社**

* 本資料の予想につきましては、説明会開催日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

決算(連結)

【業績】

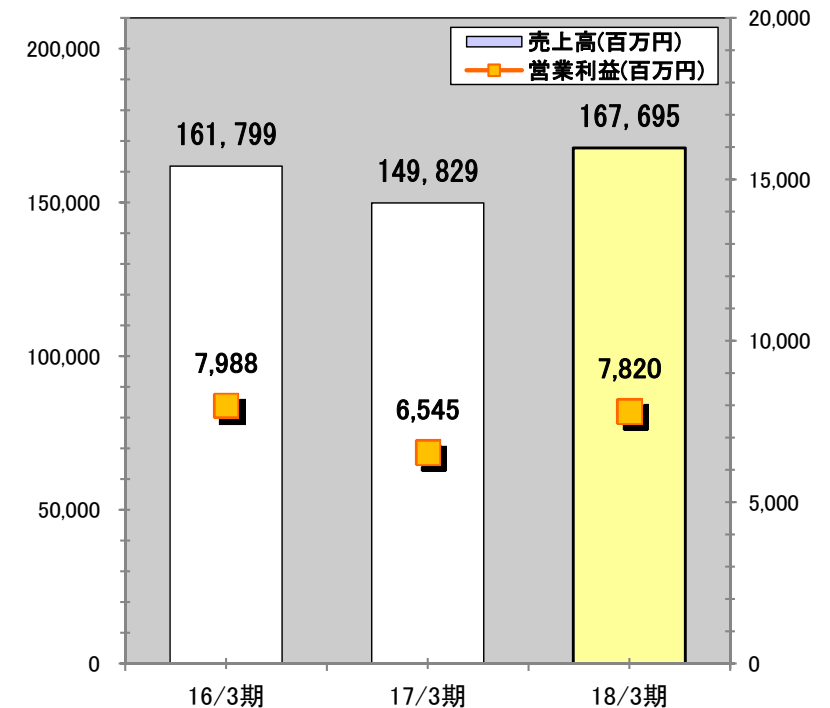
(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	対2017/3期 増減
売上高	161,799	149,829	167,695	17,865
営業利益	7,988	6,545	7,820	1,275
営業利益率	4.9%	4.4%	4.7%	0.3%
経常利益	6,227	7,202	8,105	903
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,056	4,254	4,774	520

【財務状況】

		2017年3月期	2018年3月期	対2017/3期 増減
総資産	百万円	208,034	222,751	14,716
純資産	百万円	79,584	87,086	7,502
自己資本比率	%	37.3	38.2	0.9
1株当たり純資産	円	1,922.04	2,104.07	182.03
ROE	%	5.9	5.9	0.0

※2017年10月1日を効力発生日として普通株式10株を1株の割合で株式併合を実施しております。
全連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。



部門別業績(連結)

〔売上高〕

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	対2017/3期増減
機械事業	66,803	73,453	6,649
産業機械部門	14,041	15,871	1,830
ロックドリル部門	26,979	30,199	3,220
ユニック部門	25,782	27,381	1,598
素材事業	78,968	89,987	11,018
金属部門	67,853	77,334	9,480
電子部門	5,816	6,307	491
化成品部門	5,298	6,344	1,046
不動産事業	3,074	3,338	264
その他	983	916	△66
合計	149,829	167,695	17,865

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	対2017/3期増減
機械事業	3,580	5,083	1,503
産業機械部門	104	1,005	900
ロックドリル部門	897	1,782	885
ユニック部門	2,578	2,295	△283
素材事業	1,870	1,648	△221
金属部門	1,738	867	△870
電子部門	17	330	312
化成品部門	114	451	336
不動産事業	1,265	1,339	74
その他	△126	△196	△69
調整額	△44	△55	△10
合計	6,545	7,820	1,275

	2018年3月期	対2017/3期増減
銅 価	6,444 \$ / トン	1,290 \$ / トン
為 替	110.9円 / \$	2.4円 / \$

第3四半期決算発表時の連結業績予想との乖離について

金属部門において営業利益が大きく乖離しました

第3四半期決算発表時
2018年3月期決算予想 2018年3月期決算
金属部門 営業利益15億円 → 営業利益8.6億円

主な要因

- ・銅 △5億円
銅価格下落による価格差損および収益性低下に基づく棚卸資産簿価切下げ等
- ・金 △1億円
金価格下落による価格差損および収益性低下に基づく棚卸資産簿価切下げ

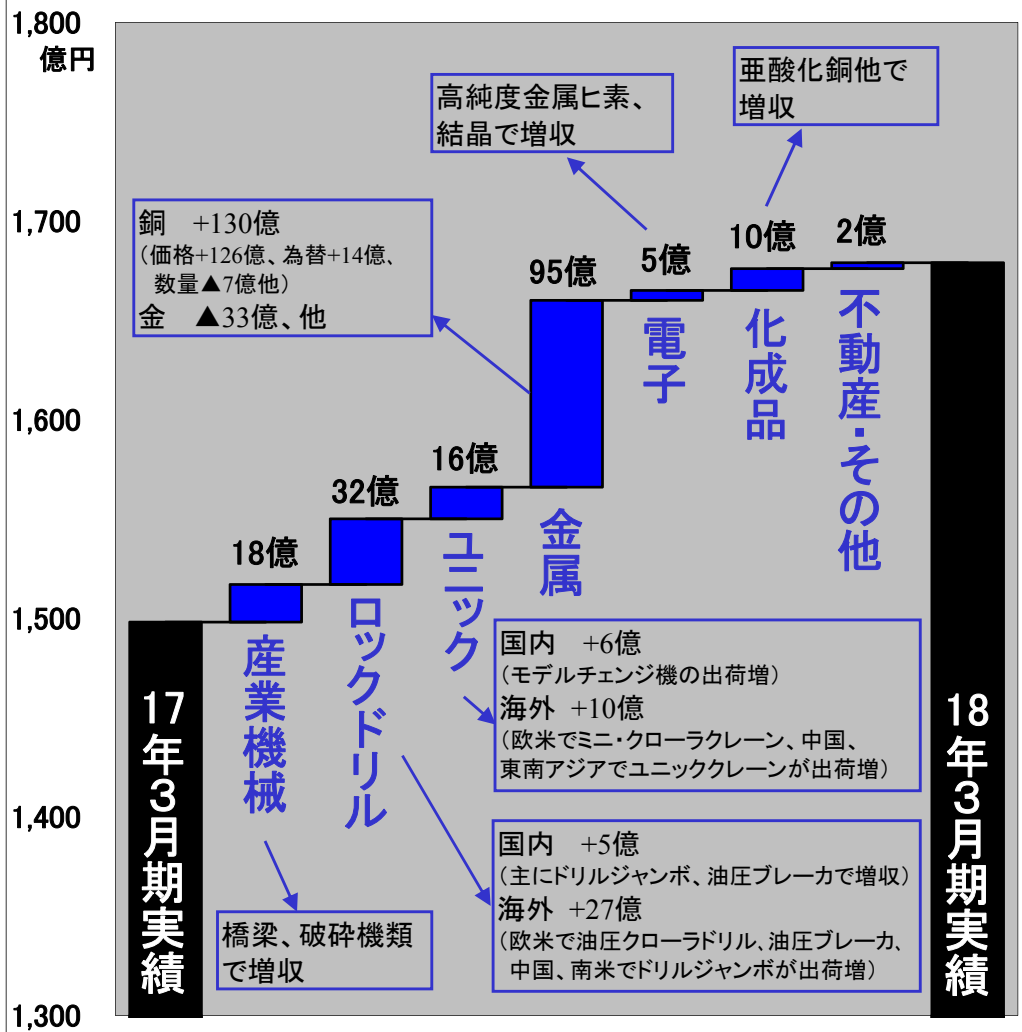
部門別業績の増減(連結)

売上高

1,498億

178億増(11.9%増)

1,676億

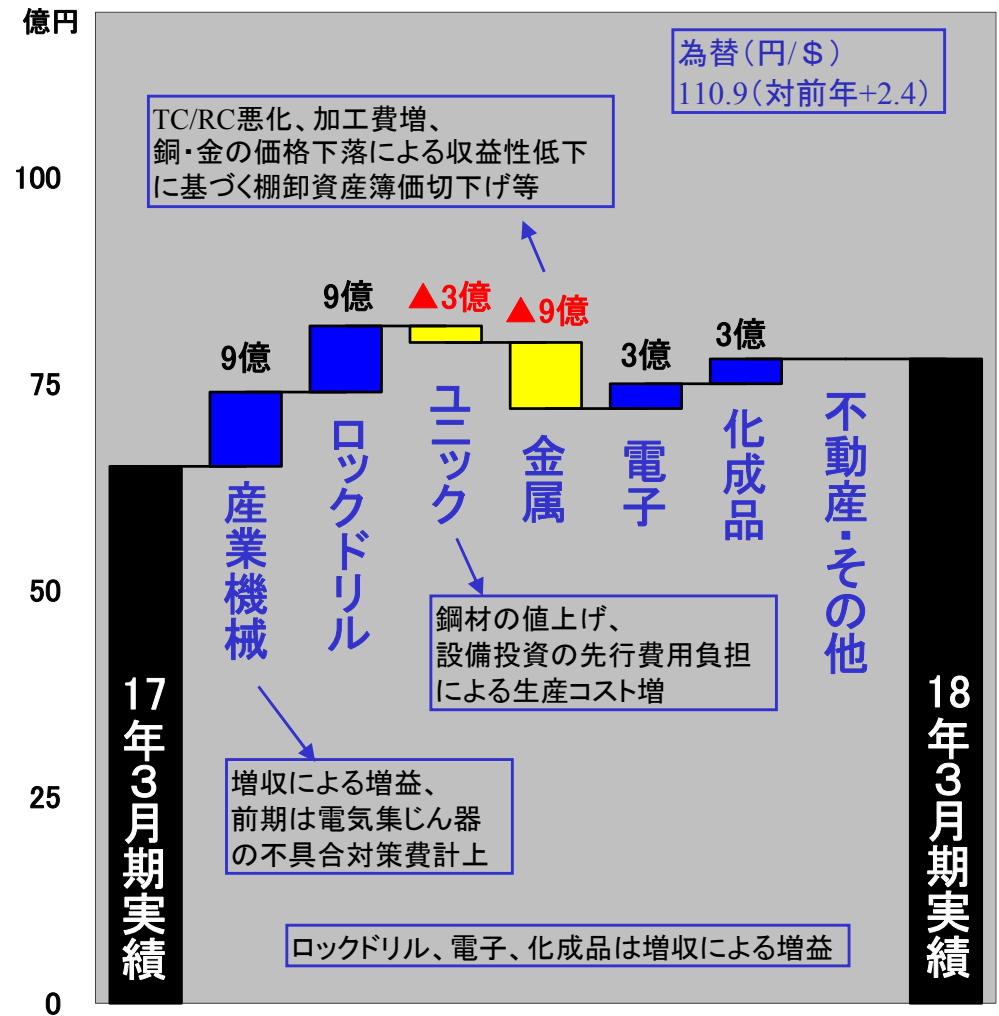


営業利益

65億

13億増(19.5%増)

78億



産業機械、ロックドリル、電子、化成製品部門の増収増益を主因に、営業利益20%増

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	対2017/3期増減
売上高	149,829	167,695	17,865
売上原価	126,207	142,426	16,219
(売上総利益)	23,622	25,268	1,646
販売費及び一般管理費	17,076	17,447	370
営業利益	6,545	7,802	1,275
営業外収益	2,746	1,727	△1,018
受取配当金	2,289	620	△1,669
受取利息	156	183	27
持分法による投資利益	—	366	366
その他	300	556	256
営業外費用	2,089	1,442	△647
支払利息	669	581	△88
持分法による投資損失	421	—	△421
休鉱山管理費	563	607	43
その他	435	254	△181
経常利益	7,202	8,105	903
特別利益	18	33	14
固定資産売却益	17	12	△5
投資有価証券売却益	0	20	19
特別損失	509	1,543	1,034
テナント退去補償関連費用	—	1,041	1,041
その他	509	502	△7
税金等調整前四半期純利益	6,711	6,594	△116
法人税、住民税及び事業税	1,294	1,154	△139
法人税等調整額	1,003	512	△490
当期純利益	4,413	4,927	513
非支配株主に帰属する当期純利益	159	153	△6
親会社株主に帰属する当期純利益	4,254	4,774	520

前期は鉱山権益売却による受取配当金1,756百万円を計上

出資する鉱山会社、製錬会社の損益改善による投資利益計上

古河大阪ビル閉館に伴う費用

連結貸借対照表

(単位:百万円)

区分	2017年3月期	2018年3月期	対2017/3期増減
資産の部			
流動資産	79,578	88,702	9,123
固定資産	128,455	134,049	5,593
有形固定資産	87,377	88,965	1,588
無形固定資産	186	227	41
投資その他の資産	40,891	44,855	3,964
資産合計	208,034	222,751	14,716
負債の部			
流動負債	59,790	79,338	19,547
固定負債	68,659	56,326	△12,333
負債合計	128,450	135,664	7,214
純資産の部			
株主資本	63,890	66,714	2,823
資本金	28,208	28,208	—
利益剰余金	35,748	38,573	2,825
自己株式	△66	△67	△1
その他の包括利益累計額	13,768	18,297	4,529
非支配株主持分	1,925	2,074	149
純資産合計	79,584	87,086	7,502
負債・純資産合計	208,034	222,751	14,716

原材料及び貯蔵品の増加等
(主に金属部門の金、銅)

株価上昇による投資有価証券の増加

株価上昇による
その他有価証券評価差額金の増加等

■有利子負債 (単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	対2017年3月期 増減
短期	9,656	9,225	△430
長期	63,851	64,086	235
有利子負債合計	73,507	73,311	△195

中期経営計画2019では、2020年3月期までの
3年間で有利子負債を約30億円減らす方針です。

2019年3月期業績予想(連結)

【業績予想】

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期 予想	対2018/3期増減
売上高	167,695	169,000	1,304
営業利益	7,820	6,500	△1,320
経常利益	8,105	5,600	△2,505
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,774	3,700	△1,074

経常利益の増減について

2018年3月期 持分法投資利益366百万円計上
2019年3月期 持分法投資損失▲400百万円見込む
(主に、鉱山会社の採掘採算悪化、製錬会社の定修による採算悪化を見込む)

【前提条件】

	2018年3月期	2019年3月期 予想	対2018/3期増減
銅 価	6,444 \$/ト	6,500 \$/ト	56 \$/ト
為 替	110.9円/\$	105.0円/\$	△5.9円/\$

為替感応度について

1円の円安で年間約1億円の営業利益増

- ・機械事業(主にロックドリル)で約50~60百万円増
- ・金属部門で約40~50百万円増

【売上高】

(単位:百万円)

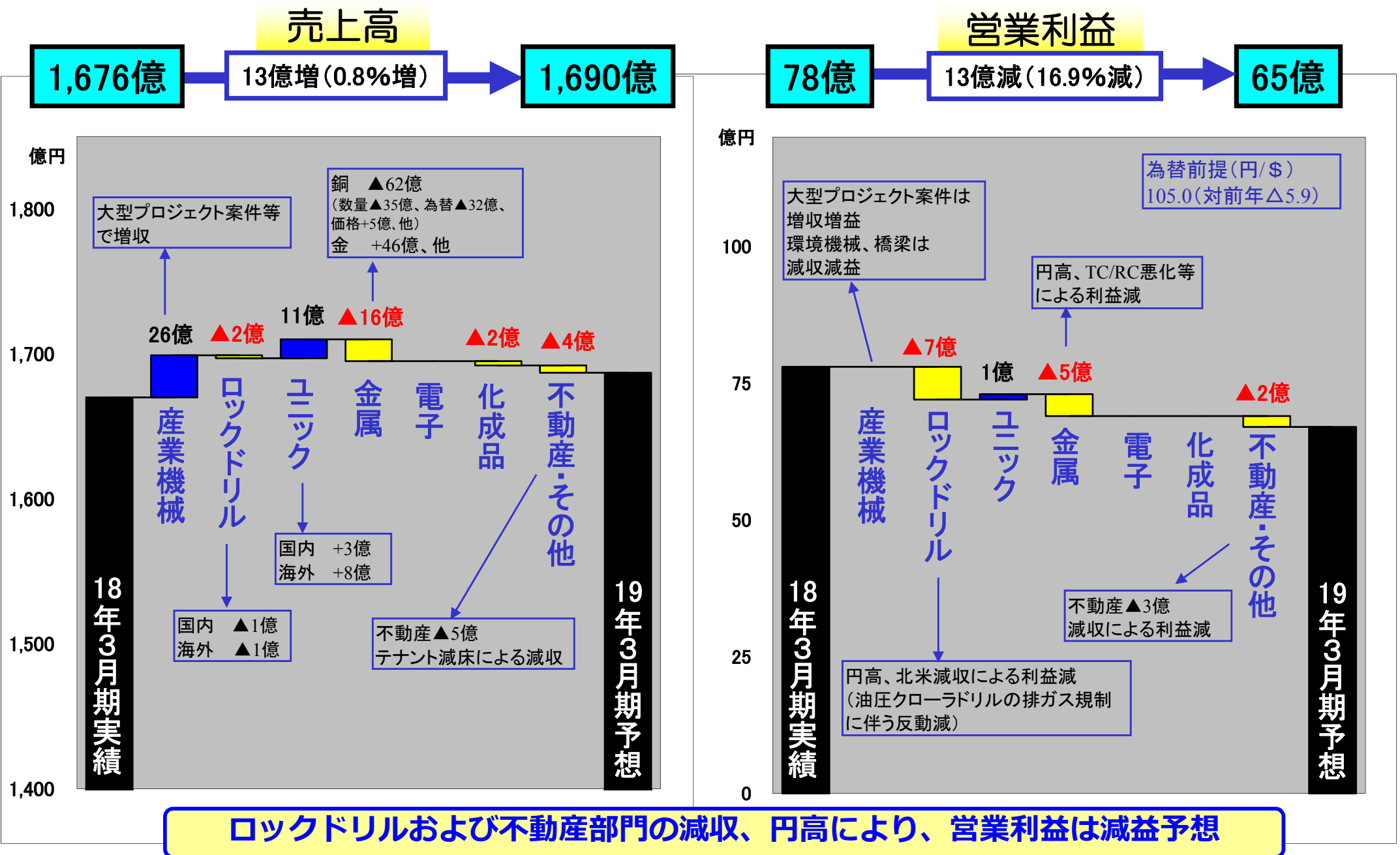
	2018年3月期	2019年3月期 予想	対2018/3期増減
機械事業	73,453	77,000	3,546
産業機械部門	15,871	18,500	2,628
ロックドリル部門	30,199	30,000	△199
ユニック部門	27,381	28,500	1,118
素材事業	89,987	88,100	△1,887
金属部門	77,334	75,700	△1,634
電子部門	6,307	6,300	△7
化成品部門	6,344	6,100	△244
不動産事業	3,338	2,800	△538
その他	916	1,100	183
合計	167,695	169,000	1,304

【営業利益】

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期 予想	対2018/3期増減
機械事業	5,083	4,500	△583
産業機械部門	1,005	1,000	△5
ロックドリル部門	1,782	1,100	△682
ユニック部門	2,295	2,400	104
素材事業	1,648	1,150	△498
金属部門	867	400	△467
電子部門	330	350	19
化成品部門	451	400	△51
不動産事業	1,339	1,000	△339
その他	△196	0	196
調整額	△55	△150	△94
合計	7,820	6,500	△1,320

2019年3月期部門別業績予想の増減



設備投資・減価償却費・研究開発費の状況(連結)

【設備投資の状況(連結)】

(単位:百万円)

設備投資額	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期 予想
機械事業	1,387	4,327	4,215	6,000
産業機械部門	360	207	358	300
ロックドリル部門	424	595	535	3,200
ユニック部門	602	3,524	3,321	2,500
素材事業	1,004	412	301	400
その他	478	685	505	600
合計	2,869	5,424	5,021	7,000

高崎吉井工場の
設備投資スタート
4年約65億円

佐倉工場の
設備投資進行中
3年約90億円

【減価償却費の状況(連結)】

減価償却費	3,190	3,137	3,260	3,500
-------	-------	-------	-------	-------

【研究開発費の状況(連結)】

研究開発費	2,680	2,464	2,292	2,000
-------	-------	-------	-------	-------

金属製品・為替・従業員の状況(連結)

【金属製品・為替の状況(連結)】

		2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期 予想
銅海外相場(平均)	¢/ポンド	236.5	233.8	292.3	295.0
	\$/トン	5,215	5,154	6,444	6,500
円相場 対米ドル平均(円/\$)		120.13	108.42	110.85	105.00
《古河メタルリソース(株)生産販売》		2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期 予想
銅 生産量(t)		86,466	84,062	88,004	84,835
銅 販売量(t)		94,327	91,294	90,103	85,290

【従業員の状況(連結)】

	2016年3月末	2017年3月末	2018年3月末	対2017/3末増減
連結人員(名)	2,521	2,616	2,690	74

補足資料 業績推移

〔連結業績〕

(単位:百万円)

	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期
売上高	200,749	213,426	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695
営業利益	16,898	14,407	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820
経常利益	15,613	12,940	993	111	1,231	1,268	2,763	6,150	6,603	6,227	7,202	8,105
親会社株主に帰属する 当期純損益	17,554	8,595	△5,917	585	563	△1,659	2,976	3,976	9,793	5,056	4,254	4,774

過去の部門別実績と業績予想

〔売上高〕

(単位:百万円)

	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期
機械事業	67,795	75,841	62,639	44,313	47,025	53,198	56,852	71,111	75,990	72,232	66,803	73,453
産業機械部門	14,119	17,331	15,836	12,783	10,655	12,949	12,894	18,527	16,712	14,926	14,041	15,871
ロックドリル部	33,046	37,497	29,427	20,386	23,880	24,143	23,305	26,842	30,910	30,076	26,979	30,199
ユニック部門	20,629	21,012	17,375	11,142	12,490	16,105	20,651	25,741	28,367	27,229	25,782	27,381
素材事業	100,655	112,795	80,174	82,126	92,202	77,961	88,024	90,161	93,269	85,642	78,968	89,987
金属部門	84,753	97,519	68,786	71,132	79,979	68,114	77,944	78,684	81,513	74,192	67,853	77,334
電子部門	9,364	8,751	5,568	5,969	7,147	4,615	4,987	5,381	5,743	5,477	5,816	6,307
化成品部門	6,538	6,525	5,820	5,025	5,076	5,187	5,093	6,096	6,013	5,973	5,298	6,344
不動産事業	2,936	2,758	2,386	2,043	1,577	1,233	1,058	1,013	2,535	3,045	3,074	3,338
その他	1,154	1,294	1,204	854	785	766	753	739	747	876	983	916
塗料部門(※1)	—	—	—	3,692	15,040	14,874	15,078	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	28,206	20,735	15,452	9,893	9,004	9,576	3,770	—	—	—	—	—
合計	200,749	213,426	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期
機械事業	5,901	6,837	1,733	△3,022	△566	1,970	2,923	5,333	6,551	5,882	3,580	5,083
産業機械部門	72	837	767	433	△29	708	778	1,851	1,711	1,037	104	1,005
ロックドリル部	3,120	3,702	255	△2,584	△350	333	△67	341	1,225	2,217	897	1,782
ユニック部門	2,708	2,297	710	△870	△186	928	2,212	3,141	3,614	2,627	2,578	2,295
素材事業	10,924	7,660	228	3,985	3,042	325	324	1,695	1,768	983	1,870	1,648
金属部門	8,837	6,206	23	3,224	1,494	308	282	1,503	1,449	1,154	1,738	867
電子部門	1,386	984	4	657	1,279	△234	△262	△123	52	△368	17	330
化成品部門	701	470	201	104	269	251	304	315	267	197	114	451
不動産事業	839	749	706	1,128	635	356	219	△43	776	1,276	1,265	1,339
その他	△301	△228	△304	△376	△92	△93	△63	△60	△130	△72	△126	△196
塗料部門(※1)	—	—	—	△19	△93	△329	65	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	△114	△430	202	△29	△56	△13	△28	—	—	—	—	—
調整額	△351	△181	△264	△69	△49	△60	△78	△39	△42	△80	△44	△55
合計	16,898	14,407	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820

※1 2013年3月に㈱トウペの株式譲渡により塗料部門から撤退

※2 2012年10月に古河コマース㈱の株式譲渡により燃料部門から撤退

注:「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用(11年3月期)により10年3月期の数値を同基準に置き換えて表示しています

注:2016年3月期以前の売上高、営業利益の素材事業合計については、金属部門、電子部門、化成品部門の百万円以下を切り捨て、足し合わせた参考値です

銅価(\$/トン)	6,970	7,584	5,864	6,101	8,139	8,485	7,855	7,104	6,554	5,215	5,154	6,444
為替(円/\$)	118.03	114.28	100.54	92.85	85.71	79.07	83.10	100.24	109.93	120.13	108.42	110.85

補足資料 理解促進コンテンツ紹介

■会社紹介「FURUKAWA 140 YEARS」(映像+ガイドブック)

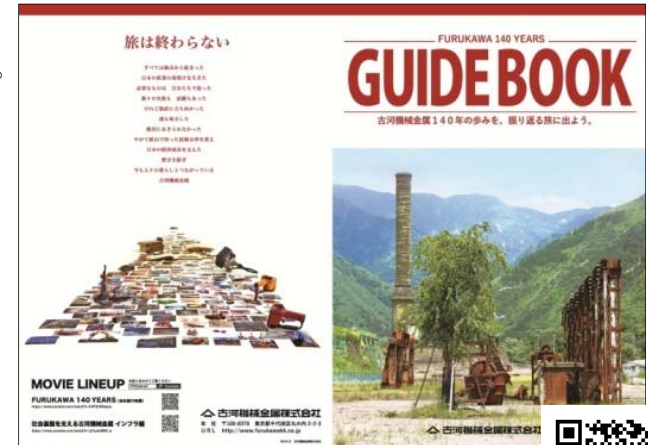


会社紹介映像

<https://www.youtube.com/watch?v=hVFQY8Ahpos>

創業140周年を機に刷新した会社紹介映像及び冊子です。

- ① オープニング「140 years」
…過去から現在までの写真を並べ140年を表現
- ② 「古河機械金属のなりたち」
…足尾銅山の古いフィルムから当社起源を紹介
- ③ 「近代化への道」
…日本の高度成長期にどう関わってきたかを紹介
- ④ 「未来へと続く道」
…現在の主力製品群を紹介



ガイドブック(冊子)

<http://www.furukawakk.co.jp/pdf/guidebook2015.pdf>



■シネマPV「社会基盤を支える古河機械金属 インフラ編」

社会基盤を支える 古河機械金属 インフラ編



インフラ整備の川上から川下まで当社の製品がどのように関わっているかを紹介したイメージPVです。

採掘現場で活躍する「油圧クローラドリル」や「破碎機」トンネル工事に不可欠な「トンネルドリルジャンボ」建設現場でみる赤いクレーンの「ユニック」など、実際の現場で撮影しシネマ化。

https://www.youtube.com/watch?v=gTszdxNNG_w



■HPスペシャルコンテンツ 「5分でわかる！古河機械金属」

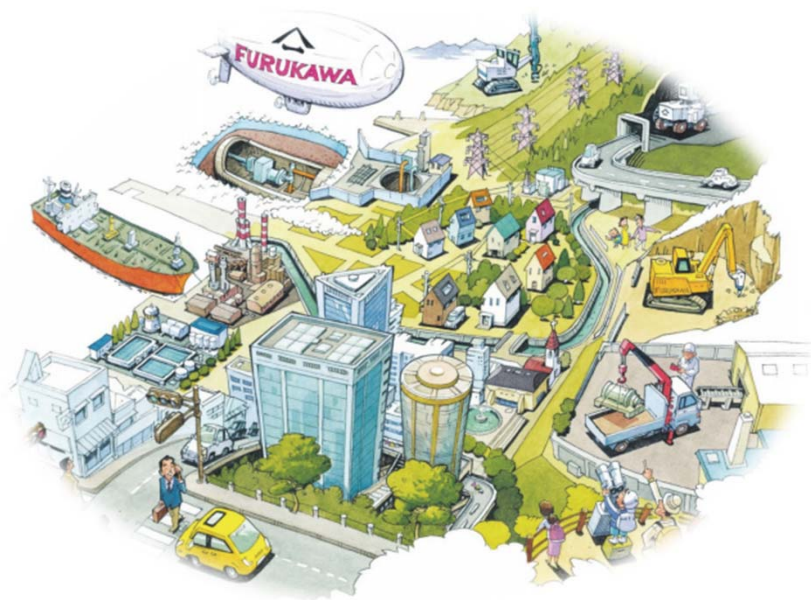


当社の歴史と製品を短い時間でわかりやすく紹介したコンテンツです。

<http://www.furukawakk.co.jp/pdf/others/introduction.pdf>



『 中期経営計画2019 』 の進捗について

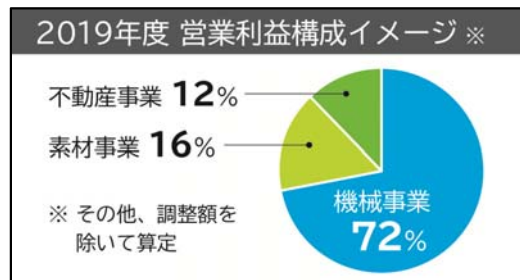
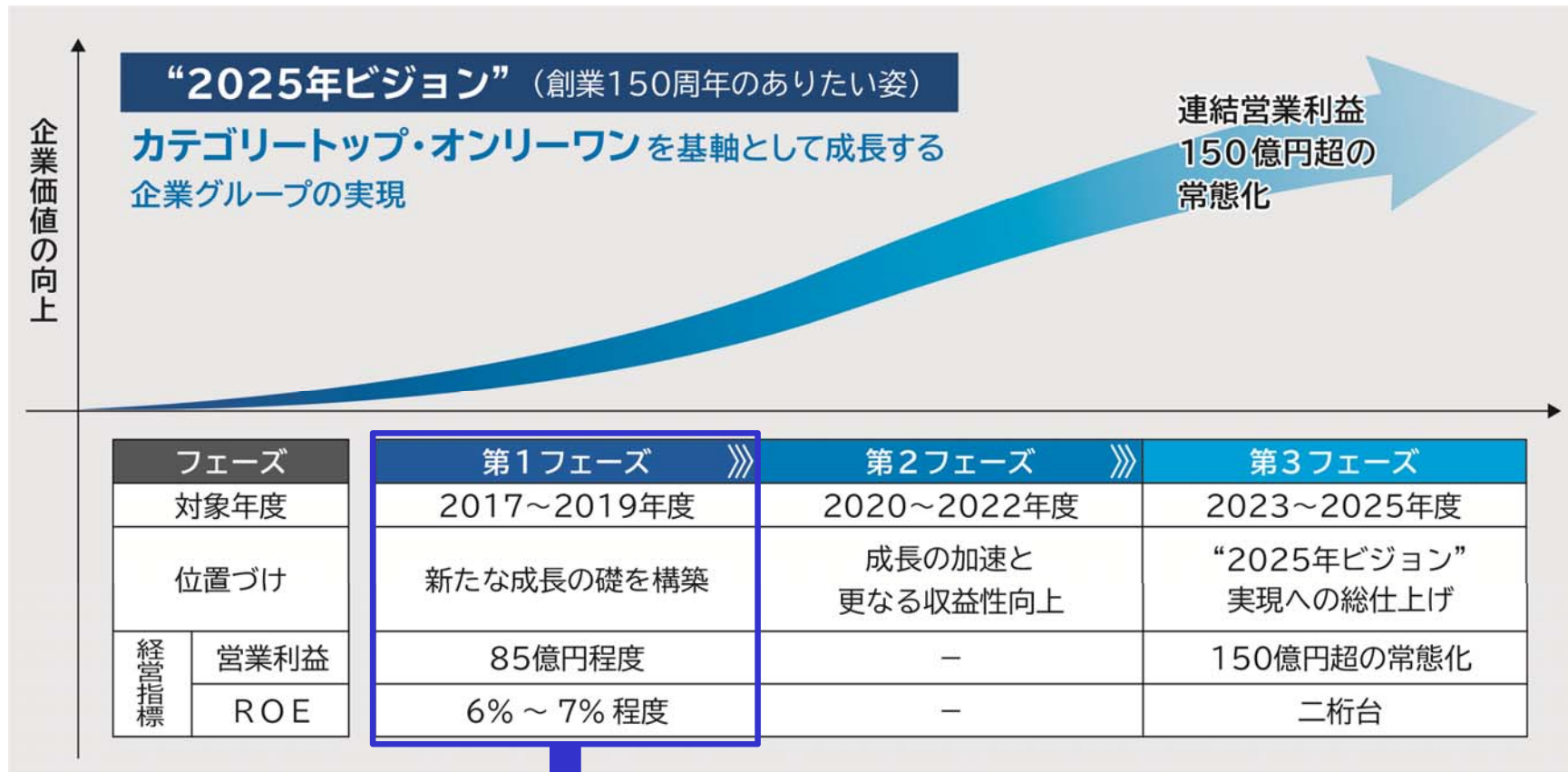


2018年5月23日

△ 古河機械金属株式会社

1. “2025年ビジョン”と『中期経営計画2019』の位置づけ
2. 2017年度総括（全社）
 - (1) 経営指標の進捗
 - (2) ROE向上に向けた取り組みの強化・浸透
 - (3) セグメント業績の進捗/売上高
 - (4) セグメント業績の進捗/営業利益
 - (5) 企業価値向上に資する投資等の積極的推進
 - (6) 開発推進体制
 - (7) 人材基盤の拡充強化
 - (8) 『中期経営計画2019』の推進体制
3. 2017年度総括（セグメント別）
 - (1) 機械事業：産業機械部門
 - (2) 機械事業：ロックドリル部門
 - (3) 機械事業：ユニック部門
 - (4) 素材事業、不動産事業

1. “2025年ビジョン”と『中期経営計画2019』の位置づけ



『中期経営計画2019』では
機械事業をコア事業と位置づけ、持続的拡大に
取り組みます。

2. 2017年度総括(全社)

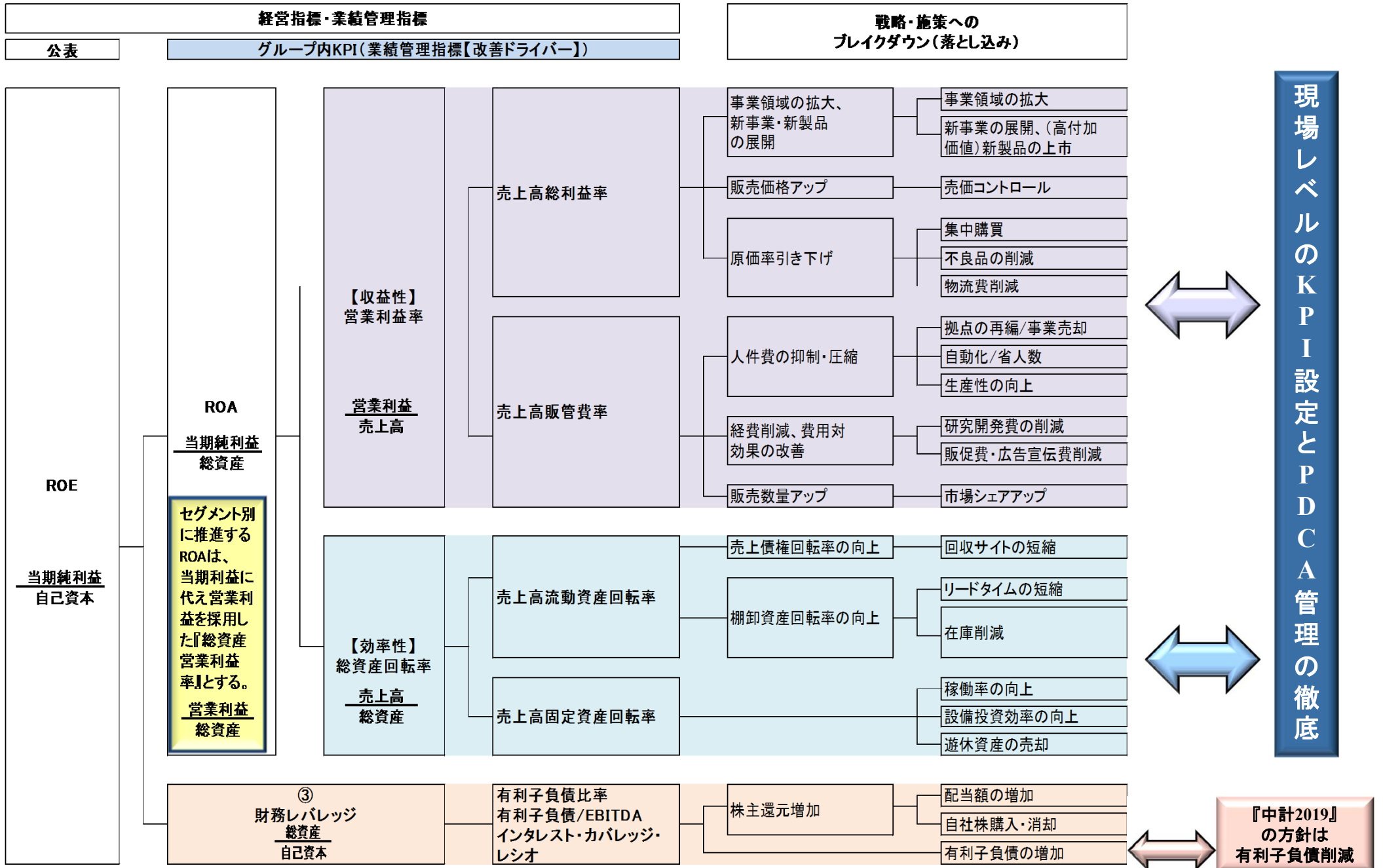
(1) 経営指標の進捗

		『中期経営計画2019』	2017年度(実績)
経営指標	営業利益	85億円程度	78.2億円
	ROE	6%~7%程度	5.9%

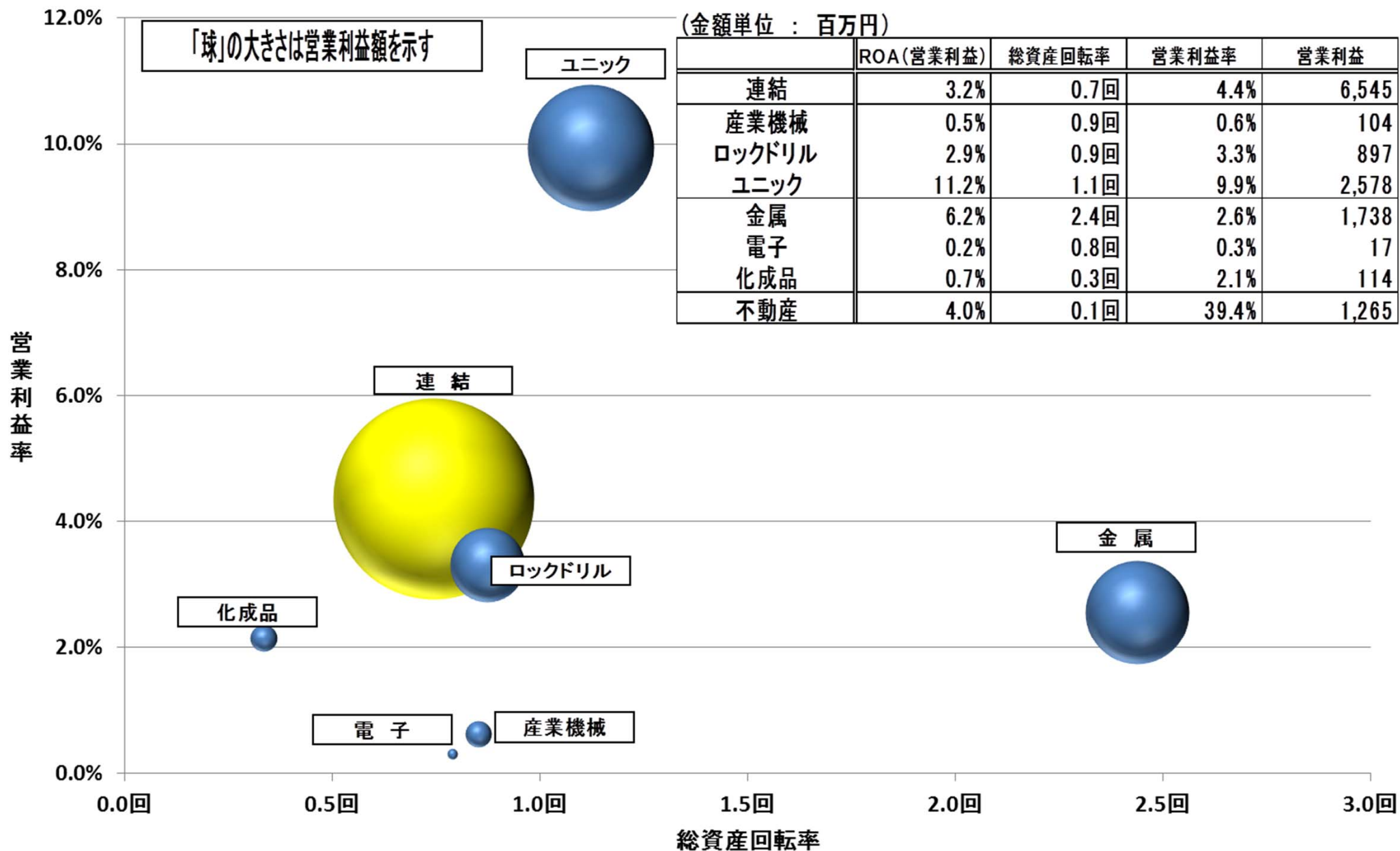
(2) ROE向上に向けた取り組みの強化・浸透 / 収益性と効率性の改善(2016年度比)

ROE	=	収益性 当期純利益率	×	効率性 総資産回転率	×	レバレッジ 財務レバレッジ
2014年度: 15.9% (実績)		5.68%		0.85回		3.29倍
2015年度: 7.5% (実績)		3.12%		0.80回		2.98倍
2016年度: 5.9% (実績)		2.84%		0.74回		2.80倍
2017年度: 5.9% (実績)		2.85%		0.78回		2.65倍
2019年度: 6%~7%程度		収益性: 改善		効率性: 改善		レバレッジ: 低下

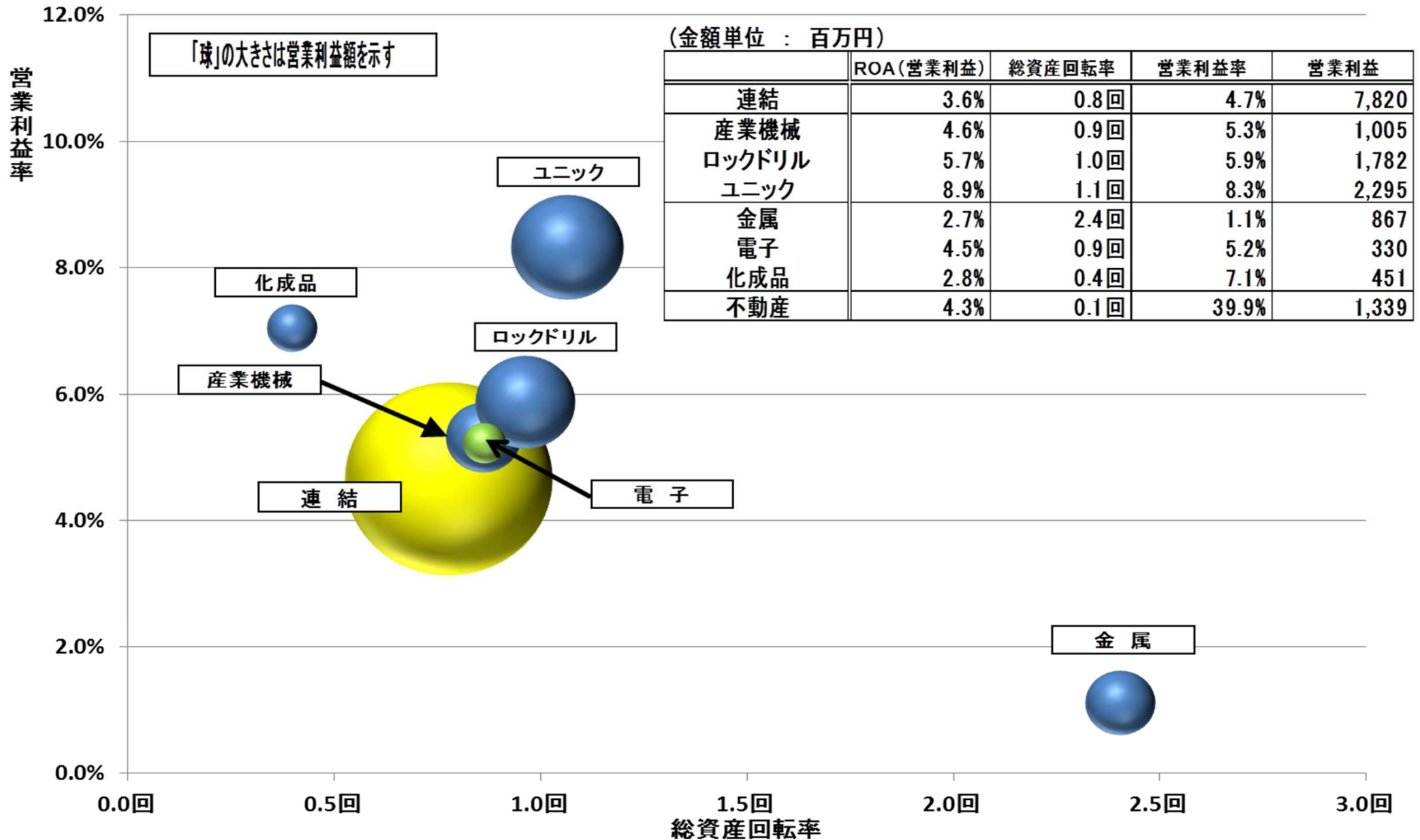
ROEの要素分解による経営指標・業績管理指標の設定と戦略・施策へのブレイクダウン



2016年度決算【ROA(営業利益) 総資産回転率 営業利益率 営業利益】



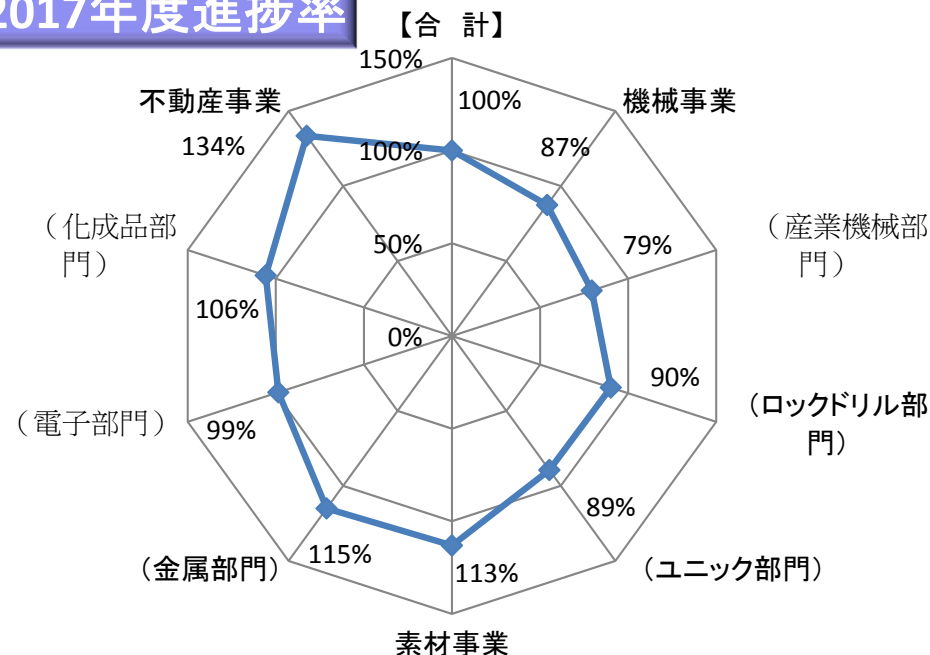
2017年度決算 【ROA(営業利益) 総資産回転率 営業利益率 営業利益】



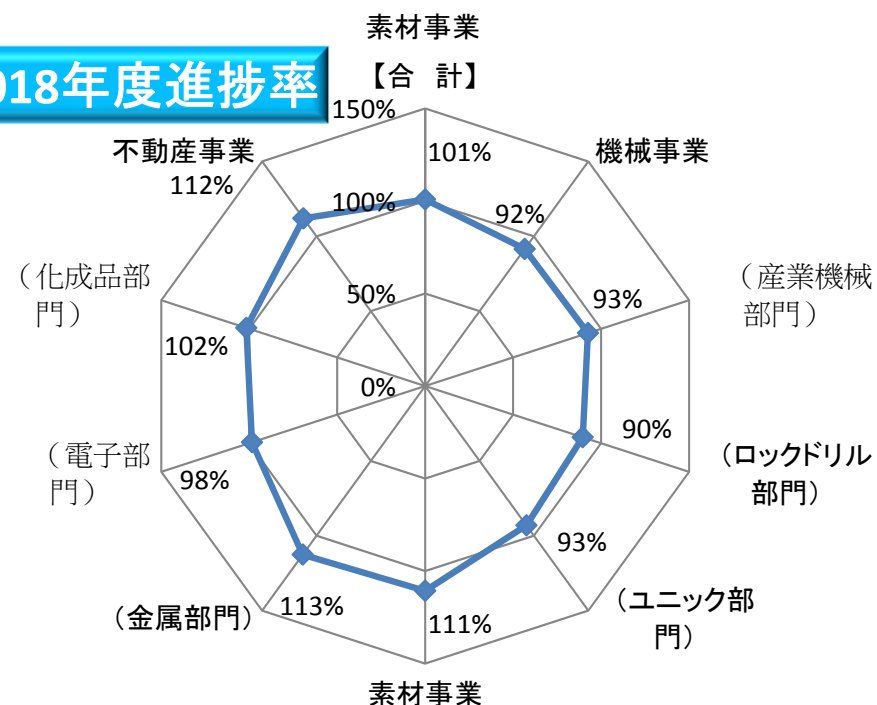
(3)セグメント業績の進捗 / 売上高

【前提条件】	2019年度想定	2017年度実績	2018年度想定
為替(円/USD)	110 円/USD	110.9 円/USD	105.0 円/USD
LME銅価格	6,000 USD/t	6,444 USD/t	6,500USD/t

2017年度進捗率



2018年度進捗率



【売上高】

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

	2019年度 (イメージ)	2017年度 (実績)	進捗率	2018年度 (予想)	進捗率
機械事業	84,100	73,453	87%	77,000	92%
産業機械部門	20,000	15,871	79%	18,500	93%
ロックドリル部門	33,500	30,199	90%	30,000	90%
ユニック部門	30,600	27,381	89%	28,500	93%
素材事業	79,600	89,987	113%	88,100	111%
金属部門	67,200	77,334	115%	75,700	113%
電子部門	6,400	6,307	99%	6,300	98%
化成品部門	6,000	6,344	106%	6,100	102%
不動産事業	2,500	3,338	134%	2,800	112%
その他	1,400	916	65%	1,100	79%
【合計】	167,600	167,695	100%	169,000	101%

(4)セグメント業績の進捗 / 営業利益

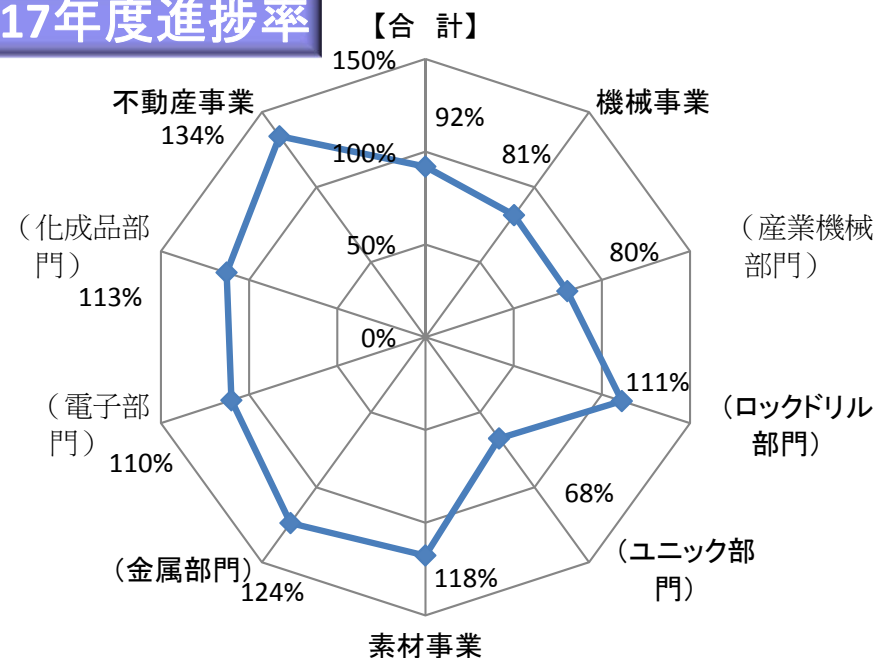
【営業利益】

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

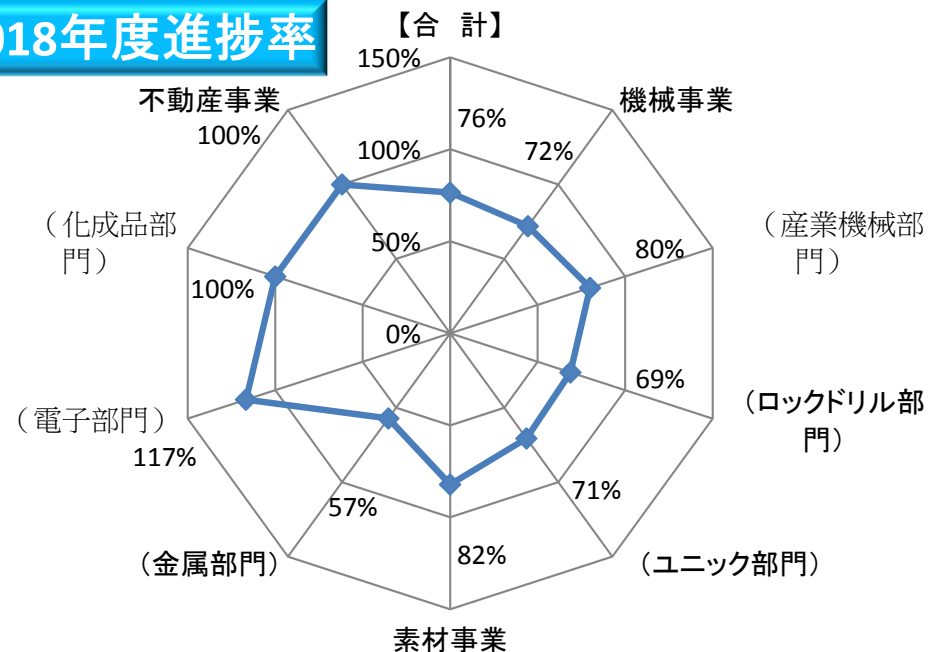
	2019年度 (イメージ)	2017年度 (実績)	進捗率	2018年度 (予想)	進捗率
機械事業	6,250	5,083	81%	4,500	72%
(*構成比)	(72%)	(65%)	—	(68%)	—
産業機械部門	1,250	1,005	80%	1,000	80%
ロックドリル部門	1,600	1,782	111%	1,100	69%
ユニック部門	3,400	2,295	68%	2,400	71%
素材事業	1,400	1,648	118%	1,150	82%
(*構成比)	(16%)	(21%)	—	(17%)	—
金属部門	700	867	124%	400	57%
電子部門	300	330	110%	350	117%
化成品部門	400	451	113%	400	100%
不動産事業	1,000	1,339	134%	1,000	100%
(*構成比)	(12%)	(17%)	—	(15%)	—
その他	△40	△196	—	0	—
(計)	8,610	7,875	—	6,650	—
調整額	△110	△55	—	△150	—
【合計】	8,500	7,820	92%	6,500	76%

* 構成比は、合計からその他、調整額を除いた額に対する比率

2017年度進捗率



2018年度進捗率



(5) 企業価値向上に資する投資等の積極的推進

1 「モノづくり力の強化」を支える設備投資計画等

(単位:百万円、%、単位未満切り捨て)

設備投資：2017年度～2019年度累計額のイメージ	
機械事業（*）	120億円
素材事業	20億円
その他	20億円
合計	160億円

2017年度の設備投資額と進捗率	
4,215百万円	35%
301百万円	15%
505百万円	25%
5,021百万円	31%

（*）機械事業セグメントの設備投資内訳	
産業機械：維持・更新、他	20億円
ロックドリル： 吉井工場設備増強・レイアウト改革、他	40億円
ユニック： 佐倉工場のマザー工場機能の強化、他	60億円

2017年度の設備投資額と進捗率	
358百万円	17%
535百万円	13%
3,321百万円	55%

2 M&A、アライアンス

方針

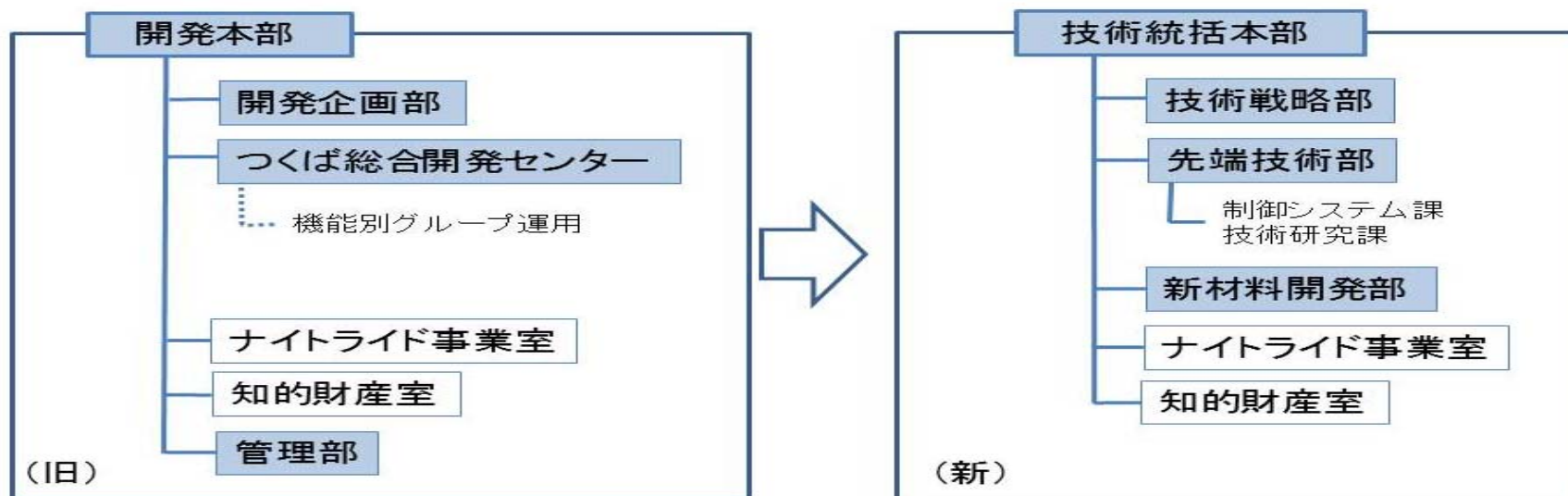
- 現有の機械事業の隙間を埋めて連続性を創るような周辺の事業会社や、機械事業における全く別の第4の柱となる事業会社を対象としたM&A、アライアンスを検討

2017年度の取り組み

- 古河産機システムズ株式会社が、世界70か国以上で使用される一軸ねじポンプを開発・製造しているSEEPEX GmbH(ドイツ国ボトロップ市)の日本法人である日本シーペックス株式会社とODM(Original Design Manufacturing)契約を締結し、「古河シーペックスポンプ」として、2017年11月15日より販売を開始。

(6) 開発推進体制

グループ各社と緊密な連携をとり、グループ全体の総合技術力の強化を図るため開発本部の組織再編を行い、技術統括本部に改組しました。



(7) 人材基盤の拡充強化

重点課題	2017年度の主な取り組み
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 社員制度(コース別社員制度、職能資格等級制度、給与制度)については、2019年度の一括改訂を目指し原案の作成に着手。 新たに経営人材育成プログラムを導入し、次世代の経営を担う人材育成を強化。
「働き方改革」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 時間外労働削減、有給休暇取得率の向上に着手するも、具体的な改善は今後の課題。 育児・介護実施者を対象にフレックスタイム制を拡大適用した他、テレワーク規程案を作成。
ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> 学卒新卒採用に占める女性割合20%以上の目標に対し、2018年度は14.7%(5名/34名)。 「企業グループ算定特例」の活用等による当社グループの障がい者法定雇用率の達成に向け取り組みを強化(古河機械金属㈱単体では、法定雇用率2.0%を達成済)。

(8) 『中期経営計画2019』の推進体制

- 「新たな成長の礎を構築」すべく2017年度に以下の推進体制をスタートしました。

2017年度の主な取り組み

- コア事業と位置づけた機械事業について、当社の執行役員の委嘱業務として、各事業会社の中計推進担当の取締役副社長を任命し、執行体制・責任体制を確立しました。
- 「業務改革推進室」を新設し、業務の標準化・効率化、生産性向上、業務プロセスの再構築等の取り組みを開始しました。

- コア事業と位置づける機械事業の海外戦略、ストックビジネス、M&Aについては、必要に応じ専任チーム等にて推進していきます。

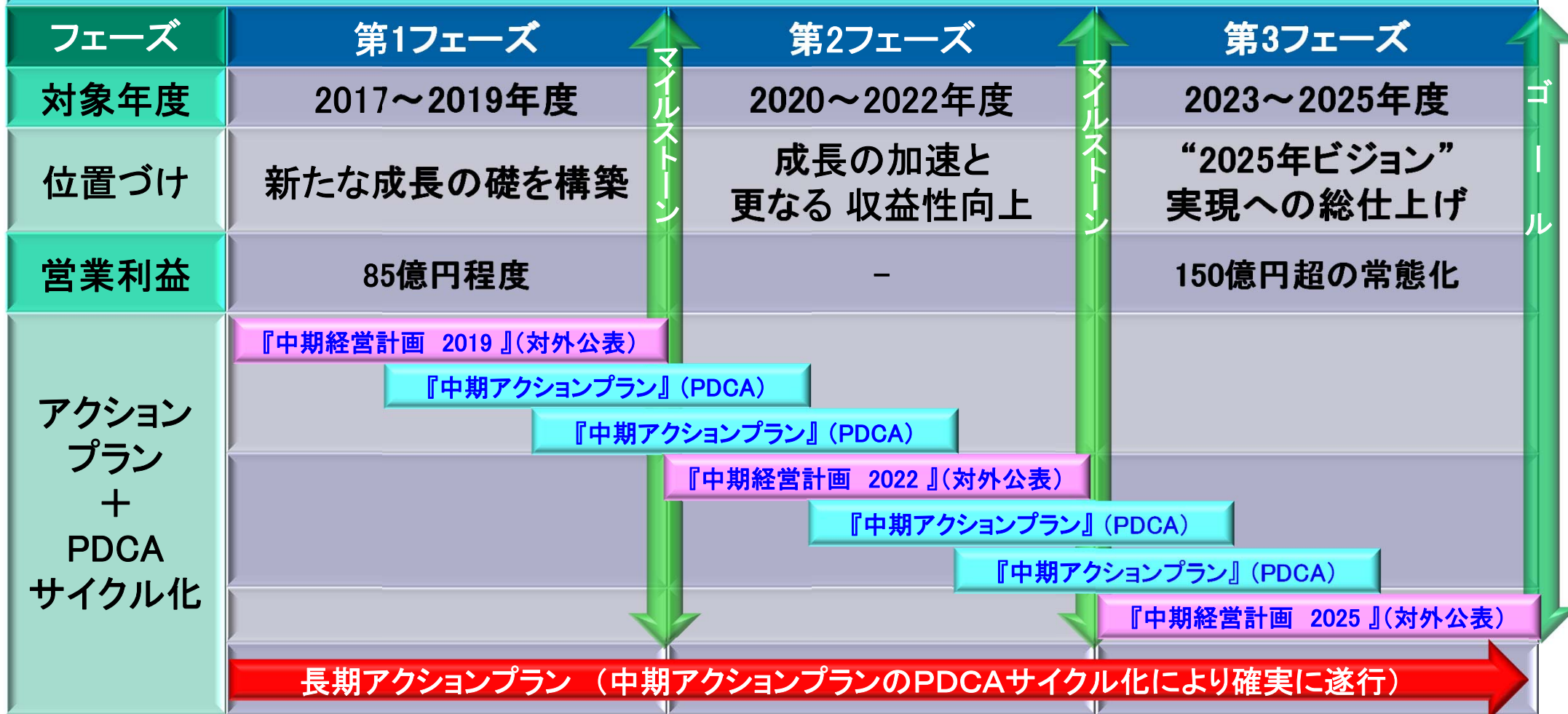
- 部門ごとに構築した具体的なアクションプランに対し、定期的にPDCAを実施しサイクル化することで、徹底した遂行管理を開始しました。

“2025年ビジョン”「FURUKAWA Power & Passion 150」

(創業150周年のありたい姿)

カテゴリートップ・オンリーワンを基軸として成長する企業グループの実現

－ 創業150周年を迎える2025年度に向けて、連結営業利益150億円超の常態化を目指します－



3. 2017年度総括(セグメント別)

(1) 機械事業：産業機械部門

基本戦略

セクションプラント工事案件の取り込みおよび大型工事プロジェクト案件などのコントラクタ事業の拡大を図る等、単なる機器メーカーからの脱却を目指して、エンジニアリング力の強化を図り、国内市場における事業基盤の拡充に取り組みます。

1 エンジニアリング力の強化

主な事業戦略

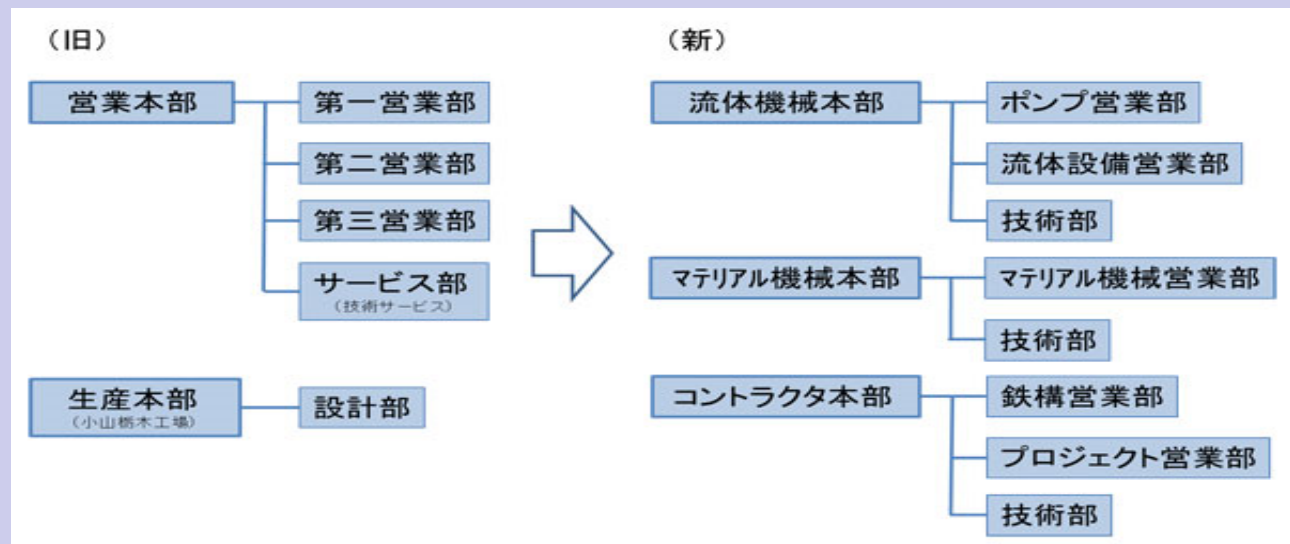
顧客の調達段階での引合対応中心の営業
(単体の製品力で勝負)

「ベンダー」から
「戦略的パートナー」へ

顧客の計画段階から参画、情報収集し
前後工程の設備を含めた提案営業
(他社技術・製品の活用も含めた
エンジニアリング力で勝負)

主な進捗

- 顧客の戦略パートナーとなるべく、エンジニアリング力の強化を目的とした組織改編を決定。(2018.4.1付改編)



(1) 機械事業： 産業機械部門

2 国内

主な事業戦略

- 鋼橋梁新設/補修工事、鋼製セグメント、大型工事プロジェクトなどのコントラクター事業の拡大

主な進捗

- 横浜環状北西線(4工区中3工区)をJVで受注。
- 鋼製セグメントの製作・販売強化。
- 東京外環道向け土砂搬送設備の設置工事開始。
- 小名浜港湾国際バルクターミナル向け荷役設備を受注。



横浜環状北西線向け橋梁
(仮組み)



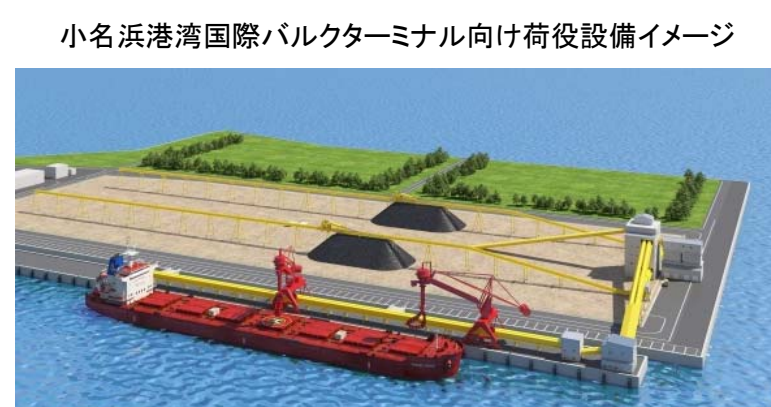
東京外環道向けベルトコンベヤ設置



曲走コンベヤ実証試験機(700R~400R部)



トンネル工事のシールド工法で
使用される鋼製セグメント



小名浜港湾国際バルクターミナル向け荷役設備イメージ



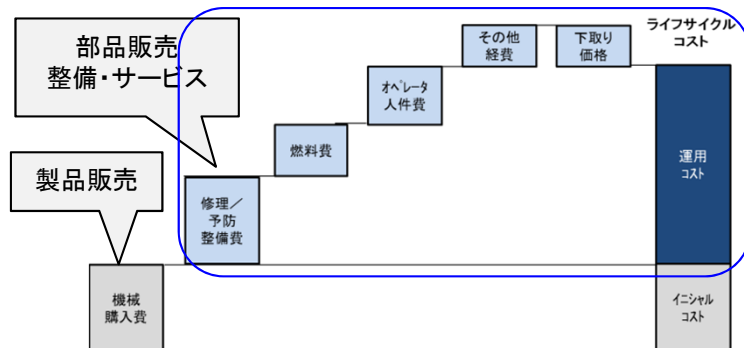
(2) 機械事業： ロックドリル部門

基本戦略

ライフサイクルサポート 機能の強化による、フロービジネス・ストックビジネス両輪での収益拡大と、ドリル製品群(ブラストホールドリル、ドリルジャンボ)の収益基盤の強化を目指して、国内サービスサポート体制の充実と海外販売チャネルの確立に取り組みます。

1 ライフサイクルサポート 機能の強化

主な事業戦略	主な進捗
<ul style="list-style-type: none"> 機械稼働情報監視システムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 油圧ブレーカの稼働監視・稼働記録装置、ブラストホールドリル用稼働監視装置、ドリルジャンボ用せん孔データ自動転送装置からのデータ収集と分析・改良を推進。
<ul style="list-style-type: none"> 社内データベース(統合システム)構築 	<ul style="list-style-type: none"> 統合システム構築に着手。
<ul style="list-style-type: none"> 部品販売拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 部品販売実績を分析し、取り組み方針・目標を設定。 フルメンテナンスプログラムの試験運用開始。
<ul style="list-style-type: none"> 国内整備事業の拡充・強化 	<ul style="list-style-type: none"> 油圧ブレーカの自社整備工場を東北と関西に新設し整備事業開始。



製品販売後も古河が顧客にメリットを提供し続けることで、部品販売、整備・サービス等のストックビジネスを取り込む。

そのための仕組みづくりを実行中。



(2) 機械事業： ロックドリル部門

2 国内

主な事業戦略

- トンネルドリルジャンボの展開強化



リニア向けトンネルドリルジャンボ
3ロングブーム2ケージ

主な進捗

- リニア中央新幹線、北海道整備新幹線での販売活動を強化。

■リニア中央新幹線



NATM工事全32工区 (約160km)
→需要台数は100台前後と見込む
(現時点での推定。進捗度合で増加の可能性有)

施工業者決定済み 10工区
(約62kmで全体の約40%)
→現時点での需要台数は40-45台程度
新車・中古含め発注台数の約90%を当社が受注

今期は新車需要は少なく来期以降に増加する見込み

■北海道整備新幹線



NATM工事全35工区 (約158km)
→需要台数は35台と見込む
(現時点での推定)

施工業者決定済み 27工区
(約126kmで全体の約80%)
→現時点での需要台数は27台
新車・中古含め発注台数の約95%を
当社が受注

新車需要は今期・来期がピーク
その後は部品・アフター整備サービスが
見込まれる

3 海外

主な事業戦略

- ブラストホールドリル、ドリルジャンボの事業基盤を拡大

主な進捗

- 昨年11月に世界販売店会議を開催。
- ドリルジャンボの実績づくりを開始(南米・中国・東南アジア)。
- 東南アジアに販売サービス拠点設立を計画中。

(2) 機械事業： ロックドリル部門

4 生産体制

主な事業戦略

- 工場設備増強・レイアウト改革による生産性の向上

主な進捗

- 高崎吉井工場の設備投資開始(2018年度から4年間、総額約65億円)。
生産能力増強および生産性向上
→組立工程・部品塗装改革、製缶設備増強、出荷検査工程改善等
環境対応および品質向上
→塗装環境改善、耐久試験設備拡充等
LCS強化
→事務研修棟新設

5 製品開発

主な事業戦略

- 製品ラインアップの拡充・強化

主な進捗

- 海外トンネル向け2ブーム1ケージドリルジャンボ(JTH2100R)を開発。
- 国内トンネル向けエレクト付コンクリート吹付機を販売開始。



2ブーム1ケージドリルジャンボ



エレクト付コンクリート吹付機

(3) 機械事業： ユニック部門

基本戦略

国内販売での安定的な収益確保とストックビジネスおよび海外販売での収益拡大を目指して、ユニッククレーンの高機能化・高付加価値化などの差別化による競争力強化、中古ビジネスの推進、海外の販売店網の再整備と販売力強化に取り組みます。

1 国内 【国内販売での確実な利益確保】

主な事業戦略

- ユニッククレーンの高機能化・高付加価値化などの差別化による競争力強化（モデルチェンジ、装置開発）

- ユニッククレーン以外の拡販
- ストックビジネスの拡充・強化

主な進捗

- 操作性・安全性を格段に高めた新型ユニッククレーン「G-FORCE」を開発し、販売開始（2016年中型トラック、2017年小・大型トラック向け）。



小型トラック向け2017年10月販売開始

大型トラック向け2017年12月販売開始

- ユニックキャリアのコストダウンによる競争力強化。
- 技術講習会を全国で開催（年間累計：18回、前年比＋7回）。
- 年次点検促進による部品販売強化を実施。

(3) 機械事業： ユニック部門

2 海外

主な事業戦略

- 販売店網の再整備と販売力強化

主な進捗

- 重要ターゲットとする国ごとに課題と対策を洗い出し営業展開。
- ユニッククレーンの販売店を見直し、取引価格を適正化(値上げ)。
- 欧米においては、レンタル会社へのミニ・クローラクレーンの浸透が進む。
→これらにより海外収益拡大中。
- 環境対応モデルとして
バッテリー式ミニ・クローラクレーンを上市。



3 生産体制

- 佐倉工場のマザー工場化と三極生産体制の機能強化、生産コスト低減



- 佐倉工場の設備投資実施中(2016年度から3年間、総額約90億円)。

油機工場新設： 2017年7月稼働
架装工場新設： 2018年1月稼働
事務研修棟： 2018年4月完成



生産能力を増強した架装工場

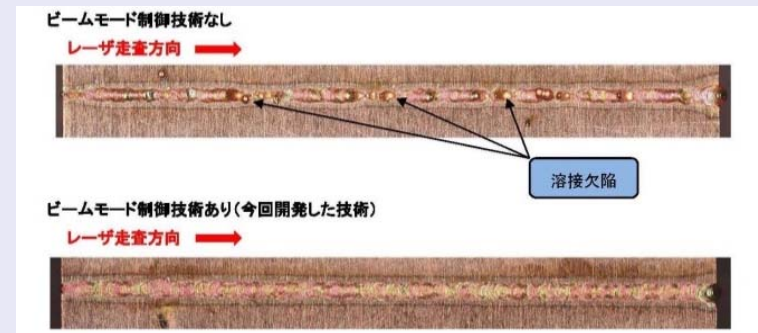


ショールームを備えた事務研修棟

- 鋼材価格上昇と設備投資の先行費用負担の影響により生産コスト上昇。部材調達の最適化による生産コスト削減、起業効果の早期実現が課題。

(4) 素材事業、不動産事業

セグメント	主な事業戦略	主な進捗
金属部門	<ul style="list-style-type: none"> 採算重視の最適生産・販売体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 「収益体質の向上」の実現に向け、適切な原料調達など最適な生産体制の構築に取り組み、国内販売増、輸出削減による収益基盤の底上げを推進中。
電子部門	<ul style="list-style-type: none"> 成熟製品から戦略製品へ移行 	<ul style="list-style-type: none"> 成熟製品(高純度金属ヒ素、結晶)は好調。 高純度金属ヒ素は、主要用途であるガリウムヒ素半導体の需要増で収益改善。 戦略製品であるコイル、窒化アルミの進展が課題。 光学部品は、システム品、回折光学素子(DOE)に引き合い増加。 (例)古河電気工業株と共同リリース実施(2017年12月21日付)。 「純銅のレーザー溶接技術を世界トップレベルで実現」
化成品部門	<ul style="list-style-type: none"> 既存製品の収益拡大と、新規開発製品の早期事業化・育成 	<ul style="list-style-type: none"> 既存製品は概ね収益拡大。 新規開発製品である金属銅粉、高純度硫酸第二鉄水溶液の進展が課題。
不動産部門	<ul style="list-style-type: none"> 室町古河三井ビルディングの安定収益確保と、保有する不動産の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 室町古河三井ビルディングは、安定した収益を確保。 2018年度にテナントの減床予定があり一時的に収益悪化見込む。 閉館予定の古河大阪ビルの将来構想は検討中。



【将来の見通しに関する記述等についてのご注意】

本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しております。実際の事業環境・事業活動は、様々な潜在的リスク、不確定要因を含んでおり、これらによる影響を受けることとなります。したがって、将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容が、実際に生じる結果と大きく異なる可能性があります。

将来の見通しに影響を与え得る潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書またはホームページの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、これらの項目に限定されるものではありません。

したがって、本資料に記載されているマイルストーンとしての経営指標や予測の達成および将来の業績を、当社として確約、あるいは保証するものではありません。

なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本資料の日付以降において、本資料に記載された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本資料は、株主・投資家等の皆様に、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成しており、当社の株式の購入・売却など、株式等の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の責任においてご判断いただきますようお願いいたします。

本資料は、利用者の責任でご利用ください。本資料に含まれる情報の誤りや瑕疵、マイルストーンとしての経営指標や予測数値等の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ご清聴有難うございました



 **古河機械金属株式会社**